



## 上海図書館新館落成記念式典に参加して

蔵書1,000万冊を誇る上海図書館の新館オープニングセレモニーに上海市からの招聘を受け、暮れも押し迫った12月19日から23日まで訪中した。

北京国家図書館に次ぐ中国で2番目に大きい上海図書館は、地上25階、延床面積83,000㎡の巨大図書館で、国際都市上海を象徴する堂々たる白亜の殿堂である。

正面向かって右側は25階建106m、左側は13階建56mのタワー式ビルで、各々5階まではスカート型に広がっており、両翼を結ぶ中央はエントランス・ホールとなっている。

館内は、A、B、C、Dと4つに区分され、A区は古典籍、近代史資料、マイクロ資料部門の閲覧室と行政管理部門、B区は玄関ホールと300席の多目的ホール、C区は中国語、外国語の新刊が開架されている閲覧室、コンピュータ室等、D区は320席の移動式多国語同時通訳設備を有する学術活動室（会議・研究室）、824席の講演ホール、500㎡のギャラリー、A Vコーナーと視聴覚編集作業室となっている。

資料の検索は、コンピュータ入力未だ20万冊程度ということで、目録カードが各室に整然と配列されている。

5階から上は全て書庫で、各閲覧室への図書搬送はドイツ製のテレ・リフトが導入されており、天井から何台もの箱がゆっくりと上下左右に昇降している光景は圧巻であった。



上海図書館正面

各種一般閲覧室38室、研究閲覧室24室、A V資料研究室8室、総閲覧席数3,036席で、開架冊数は約80万冊という各国の国立図書館に匹敵する大規模な図書館である。

中国ではいま続々と図書館が建設されており、府立中央図書館にも上海はもとより、北京国家図書館、河北省、遼寧省などの図書館からの視察が相ついでいる。

中国は世界で最も早く図書館を有した国の一つであり、貴重な古代資料を保存し、中国のみならず世界の文化に貢献した国である。

上海図書館が世界的な図書館としてますます発展されるとともに、今後長期にわたって府立中央図書館との友好交流が促進されることを期待してやまない。(松本、加藤)



## 「電子図書館」の実用化に向けて

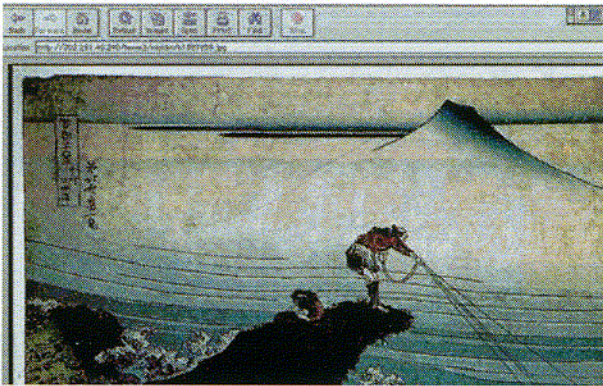
誰でも参加できる—電子図書館システムの実証実験

府立中央図書館は、「電子図書館システムの実証実験」に全国の公立図書館で唯一利用評価館として参加しています。

実験は、京阪奈学研都市の新世代通信網実験協議会（BBCC）が国立国会図書館と連携して実施、当館と、BBCC、国立国会図書館（東京）、国際日本文化研究センター（京都）間をB-ISDNの高速ネ

ットワーク環境で結び、竹久夢二等の児童書や葛飾北斎、安藤広重らの版画等、デジタル（電子）化された資料を当館2階に置かれた専用端末で呼び出して、どなたでも自由にご覧になるこ





国際日本文化研究センターのコンテンツ例  
日本美術データベース エルミタージュ美術館  
富嶽三十六景 甲州碓氷 (葛飾北斎)

とができます。

回線の伝送速度は、現在使用されているISDN回線の100ないし400倍の伝送容量をもつBBCC実験網が使われ、高速かつ鮮明に画像や文字情報が伝送される電子図書館の世界を体験していただけます。

### 実験の目的

2002年度中に京阪奈学研都市に開館予定の国立国会図書館関西館（仮称）は、「電子図書館」の実現を指向しています。

世界の主要な国立図書館の将来構想にも、同様な動きが見られ、21世紀の情報ニーズに対応するための国家的な政策課題として位置づけられています。

電子図書館システムは、どのような資料をデジタル化しどのようにデータベースを構築していくかといった入力系の実験とともに、利用者にとって使いやすく、目的とする情報が精度良く検索でき、見やすく表示する機能が研究されています。

本実験への当館の参加は、利用者の方々に広く利用していただき、電子図書館実現のための課題や理想的なユーザーインターフェースの姿等を浮き彫りにすることにあります。

実験は平成11年3月31日まで続けられます。この間、アンケート調査やヒアリング調査等も行なう予定です。その際にはご協力をお願いいたします。

### 閲覧できるコンテンツ（情報の内容）

現在提供されている資料は次の通りですが、実験期間中にはおよそ2万点に拡大される予定です。

1. 国立国会図書館から提供される資料（児童書）
  - 竹久夢二「夢二絵手本」など11点
  - 鳥崎藤村「日本童話集」など11点
  - 鈴木三重吉「象の鼻」など25点
 以後、芥川龍之介や宮沢賢治等の作品も追

加される予定です。

2. 国際日本文化研究センターから提供される資料
  - (1) 外像データベース 江戸時代末期から明治期の日本について世界各国で出版された日本文化に関する研究資料から抽出された写真や挿絵6点。
  - (2) 古写真データベース 江戸時代末期から明治期に撮影されたモノクロ写真に彩色を施した6点。
  - (3) 日本美術データベース 海外に流出した絵画、版画、陶磁器等の日本美術品のうち東欧の美術館（下記の3館）が所蔵する資料。
    - プーシキン美術館（モスクワ）
      - 絵画・版画約1,620点
    - エルミタージュ美術館（サンクトペテルブルク）
      - 絵画・版画約920点、他500点
    - フェレンツ・ホップ東洋美術館（ブタペスト）
      - 絵画・版画約800点、他600点
  - (4) フォーラムデータベース センターの研究員等によるフォーラムの報告書の全文情報47件。
3. BBCCから提供される資料
  - 西陣グラフ 1995年5月号～1996年4月号
  - 茶道雑誌 1996年4月号～1996年6月号

### 電子図書館-未解決の問題点

このように、デジタル化の技術とデータ通信技術の発達、遠隔地にある図書館等の機関に所蔵されている資料を検索し閲覧できる仮想（バーチャル）図書館を現実のものとしてきています。

大学図書館等の世界では、学術情報センターが2年間の試行を経て本年4月から学術雑誌を対象とした電子図書館システムの本格的なサービスを開始しました。今年、わが国の電子図書館時代の幕開けの年といってもよいでしょう。

デジタル情報をネットワーク環境の下で幅広く利用者の方々に使っていただくようにするには、著作権処理の問題等まだまだ未解決の問題が残されています。また、各図書館で、高速・大容量の通信回線等の基盤をどのように整備していくのか、また回線使用料の費用負担にどう取り組むのか、いずれも今後の課題です。

「情報の貧者」をつくらぬよう、誰でもが等しく電子図書館の恩恵を受けられるようにすることが、公共図書館が全体で取り組まなければならない重要な課題と考えています。